

はりま

仮設住宅作りに挑戦

千種高の生徒ら地元木材で



電動工具を使い、壁用パネルを仕上げ
る高校生ら＝しそ森林組合千種支所

宍粟市千種町の県立千種高校の生徒約80人が23日、自然災害の被災地に建てられる仮設住宅作りに挑戦した。防災教育をテーマにした千種災害対策プロジェクトの一環。しそ森林組合が提供した地元産の杉を材料に、来月下旬までに平屋建て1棟(床面積約30平方メートル)の完成を目指す。

た岩手県陸前高田市で同大工学校がボランティアで建設に従事した木造仮設住宅の設計図を基本にした。この日の作業は、しそ森林組合千種支所で大工の林繁樹さん(62)らが指導し、生徒たちは電動工具で部材に釘を打ったり、断熱材を詰めたりして縦約2メートルの壁用パネルを次々と仕上げた。千種中学校の生徒約30人も手伝った。

千種中学校の内藤康男校長は

「ものづくり体験でもあり、林業の町・千種で将来、産業活性化に貢献する人材に育って欲しい」と期待していた。